TOMODACHI イニシアチブ 2022 活動報告書

次世代リーダー育成を目指して

親愛なる友人のみなさま、

TOMODACHIイニシアチブへのご支援に感謝申し上げます。TOMODACHIイニシアチブは、東日本大震災からの復旧・復興に向けた取り組みの中で、最も持続的で、かつ意義ある成果を収めた官民パートナーシップです。

2011年以来、私たちは、家族、そしてコミュニティーの生活再建に取り組む人々の決意と目の当たりにし、得られた成果を見てきました。この地域の復興と発展の多くは、若者たちが日々行っていたこと、そして今も続けていることの直接的な結果なのです。

2022年に新型コロナウイルスの感染拡大による行動制限が解除されたことで、私たちのプログラムや活動の多くを再開するだけでなく、以前よりも規模を拡大し、より良いものになりました。

10月には、米日カウンシルは東京でアニュアル・カンファレンスを開催しました。久しぶりの再会を喜ぶ参加者も多くおり、TOMODACHI世代を代表する2人の若き日本人リーダーの話を聞くことができ、700人の出席者全員が感動を共有することができました。

一人は現在、東北地方の教育NPOで働くユースの支援者として、もう一人は関西からこの夏、初めてプログラムによって米国を訪れた高校生です。次世代を担うリーダーとして、明るく素晴らしい未来を共に築いていこうと、会場の参加者を勇気づけてくれました。

TOMODACHIイニシアチブは、東北を拠点に、若い女性、起業を目指している学生や社会貢献を模索する学生、障がいを持つ若者リーダーなど、多様なコミュニティに焦点を当てたプログラムを長年にわたって展開しています。TOMODACHIイニシアチブのプログラムは、若者をリーダーとして成長させ、日米の架け橋となるスキルと機会を提供し、波及効果によって世界にポジティブな影響を与えることを目的としています。

今年、寛大で先見の明のある慈善家、渡邉利三氏の多大なる支援により、TOMODACHIイニシアチブは、新たな戦略的プログラムを開始しました。TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Programでは、日本各地から高校生をロサンゼルスに招き、ホームステイ、大学訪問、多様性とリーダーシップに関する授業などを行いました。この経験をもとに、それぞれが米国留学の道を見つけてくれることを期待しています。

また、在日米国大使館と米日カウンシルは日本のスポーツマネジメントを学ぶ学生に米国のアプローチを紹介し、2028年のロサンゼルスでの夏季オリンピック大会を見据えながら、2020年東京オリンピック後の日本におけるイノベーションを豊かにするため、TOMODACHI – U.S. Embassy Go For Gold スポーツ・リーダーシップ・プログラムを開始しました。スポーツは常に、文化を繋ぎ、リーダーを育成する素晴らしい手段です。

TOMODACHI世代と呼ばれる1万人近い若者がいる中で、TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークは、アラムナイ・コミュニティーを繋ぎ、リーダーシップの機会を創出する重要な役割を担っています。2022年、私たちは影響力と機会を拡大するために、このフレームワークを米国へも拡大しました。

このような次世代リーダー達の成長を見届ける機会を提供していただけるファウンダー、スポンサー、実施運営団体、アドバイザーや支援者の皆さまのビジョンと多大なるご支援に心より感謝申し上げます。米日カウンシルと在日米国大使館は、日本国政府をはじめとした多くのパートナーの皆さまと一緒に、日米の若きリーダーの育成というミッションを通して社会に貢献できますことを誇りに思っています。 未来の日米関係への皆さまのコミットメントに、心より感謝申し上げます。

駐日米国大使
ラーム・エマニュエル

米日カウンシル 会長兼CEO
スザンヌ・バサラ

「トモダチ作戦は、災害への緊急支援という、短距離ランナーでした。
一方TOMODACHIイニシアチブは、社会に長期に亘って効果をもたらすマラソンランナーです。
皆さんには、コミュニティに良いインパクトを与え続けるマラソンランナーになっていただくことを期待します。」

津田順子氏

使命

TOMODACHIイニシアチブは、米日カウンシルと在日米国大使館が主導する官民パートナーシップで、日本国政府の支援も受けています。東日本大震災後の復興支援として発足され、教育・文化交流・リーダーシップ育成などのプログラムを通して、日米の次世代リーダー育成を目指します。

背景

2011年3月11日の東日本大震災の発生を受け、米軍と自衛隊は「トモダチ作戦」を通じて東北地方への緊急人道救援活動で協力し、成功を収めました。この時の協力と友情の精神を基盤に、米国と日本はTOMODACHIイニシアチブを開始しました。TOMODACHIは在日米国大使館と米日カウンシルが主導し、日本国政府の支援の下、日米両国の企業、組織、個人から協力を受け、運営されています。

ビジョン

日米関係の強化に深く関わり、互いの文化や国を理解し、さらには、より協力的で繁栄した安全な世界へ貢献するために、また、そうした世界で成功を収めるために必要とされている、技術と国際的な視点を備えた日米の次世代リーダーである「TOMODACHI世代」の育成を目指しています。

将来

TOMODACHIイニチアチブは、革新的な官民パートナーシップの模範としての役割を今後も果たしていきます。そして、「TOMODACHI世代」を育成するアラムナイ（プログラム経験者）・プログラムなど、異文化交流を通じて日米の若手リーダーを育成する各種プログラムを企画・構築し、日米関係を支援する企業・団体とのパートナーシップを拡大していきます。

プログラム

教育プログラムは、日米両国の若者の交流を短・中・長期の留学体験という形で行い、互いの文化に触れることで多文化への理解を推進し、彼らの人生に新しい気づきをもたらします。

文化交流プログラムは、スポーツや音楽、芸術の分野において、日米両国の若者が、相互の国の文化を学び、交流を継続していく機会提供します。

リーダーシップ・プログラムは、次世代のリーダーとして、成功を収めるためのスキルや専門知識を得る機会を提供します。

アラムナイ・プログラムは、TOMODACHIプログラムの経験を基に、日米の若者たちがスキルを磨き、経験を積むことで、夢を実現し、より良い世界の構築に貢献できる人材となるよう支援します。

TOMODACHIの生涯にわたる道のり

TOMODACHIは日米の次世代リーダー育成に焦点を当て、異文化交流などの一連の体験を通じて若手リーダーの育成を支援しています。

- 異文化との初めての接触
- 次世代の若者に日米関係を紹介

- 人生の転機となる異文化体験
- 若者の異文化体験

- 知的好奇心を満たす学びの機会
- 社会貢献や地域社会での活動

- 次世代リーダーの育成
- 起業家精神育成プログラム
- 女性のためのメンターシッププログラム

パートーナーと共に
永続的な価値を創造するため

TOMODACHIイニシアチブのストラテジック・パートナーは、日本人やアメリカ人が互いの国へ留学し、互いの文化に触れる機会を得られるよう支援しています。2022年は高校生から若き社会人まで121名が13のプログラムに参加し、また484名がTOMODACHIのイベントに参加しました。

これらのユニークなプログラムは、参加者がグローバルな専門知識やリーダーシップスキルを身につけ、持続的な関係や人脈を構築する機会を提供します。プログラム終了後も、「TOMODACHI世代」の参加者は、アラムナイイベント、ワークショップ、プログラムに参加することで、参加者同士で刺激を与え合い、お互いを高め合っています。

TOMODACHI 日本アムウェイ財団 東北ミライリーダー・プログラム

2019年より開始した本プログラムは、観光産業を中心とした東北地方の活性化を目指す次世代リーダーを育成することを目的としています。日本と米国での研修を通じて、参加者が地域の魅力を再発見し、街を活性化していきます。また、米国では現地の学生との交流から、それぞれの地域社会で独自のプロジェクトを開発することに至りました。

TOMODACHI Boeing Keio SFC Entrepreneurship Seminar

東日本大震災後、日本の未来を担う若者を育成するために始まった、高校生、大学生、大学院生のための起業家育成プログラムは、今年で10年目を迎えました。オンラインで行われたこのセミナーでは、参加者がグループに分かれてビジネスプランを作成し、それを現実するために行動を起こしました。オンライン会議では、起業家やプログラム関係者を前に自分たちのビジネスプランを発表しました。

Building the TOMODACHI Generation: *Morgan Stanley Ambassadors Program*

新型コロナウイルスの影響により、2年半ぶりにプログラムが開催されました。今年度のプログラムには、8人の日本人大学生と6人の米国の大学生が参加し、ワシントンD.C.で2週間の集中プログラムを実施しました。
市民組織、セクターを超えたパートナーシップ、そしてその理解を活かして社会的課題に取り組む方法について学びました。

TOMODACHI ゴールドマン・サックス・ミュージック・アウトリーチ・プログラム

東日本大震災で被災した岩手・宮城・福島の子どもたちを支援するために、2013年にスタートしました。
プログラムは、音楽とダンスを通して、文化的・自己理解を深め、日米の青少年のコミュニケーションの活性を支援するものです。子どもたちは、歌や踊りをアメリカのパフォーマーおよび教育グループのメンバーたちと一緒に楽しみました。

TOMODACHI J&J災害看護研修プログラム

2015年からスタートし、学生の災害看護に関する知識を深めることを目的としています。今年のプログラムのテーマは、リーダーシップスキルを身につけるとともに、看護をする自分自身もケアし、災害に巻き込まれたすべての人々の精神的および身体的ケアを行えるようになることでした。

TOMODACHIローソン女子高校生キャリアメンタリングプログラム in 東北

岩手・宮城・福島の高校1・2年の女子生徒を対象に行われた、5カ月間のオンラインプログラムは、ワークショップ、留学生や社会人との交流、同級生によるプレゼンテーションなど、将来のキャリアをサポートする内容で構成されています。学生の将来性を高めると同時に、東北地方のリーダー育成を支援しています。

TOMODACHI MetLife Women's Leadership Program

10カ月にわたる本プログラムは、大阪、東京、福岡、那覇、札幌にてオンライン開催されました。メンター制度、自分のリーダーシップスタイルについての考察、米国研修、グループプロジェクトなど数多くのセッションが行われ、参加者は自己認識、コラボレーション、ペイフォーワード(Pay it forward)、グローバルな視点、レジリエンスなど、将来の職場で役立つ必須スキルを獲得しました。

TOMODACHI MUFG 国際交流プログラム

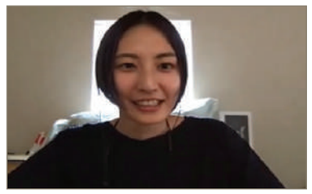
今年で11年目を迎える、高校生のための文化交流プログラムでは、「リーダーシップとレジリエンス」についての3つのセッションが行われました。学生たちは、日系アメリカ人の歴史を学び、東日本大震災について、3名のTOMODACHIアラムナイから実際の体験を聞きました。学生たちは、自分の興味や関心を共有することで、友情を育んでいました。また、文化の違いにもかかわらず、数え切れないほどの共通点を発見しました。

TOMODACHI住友商事奨学金プログラム

2014年に開始され、海外留学への経済的支援を必要とする10名の学生を対象に実施する、1年間の奨学金プログラムです。グローバルな視野を持った次世代のリーダーを育成することを目的としています。また奨学生は、米州住友商事での研修を含む5日間の東海岸研修を受けることができます。

TOMODACHIサマーソフトバンク・リーダーシップ・プログラム

2012年に設立されたこのプログラムは、東日本大震災で被災した日本人生徒を対象に、カリフォルニア大学バークレー校で3週間にわたり、リーダーシップスキルを学ぶことを目的としています。交流、現地調査、文化に触れることで、自分たちがどのように故郷を支えることができるのか、見識を深めることができました。



TOMODACHI-UNIQLO フェローシップ

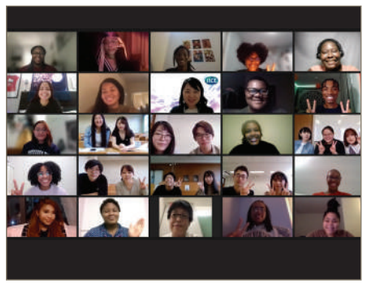
このプログラムは、日本のビジネスとファッションの次世代リーダーを対象に、ファッションに関する米国のトップレベルの大学院教育を提供するものです。2022年には、1名の学生を支援しました。

架け橋となるリーダーを育てる

2022年、3つの一般基金プログラムを実施しました。寄付者の皆様からのご支援により、教育交流、リーダーシッププログラム、異文化交流プログラムなどの実施が可能になりました。

TOMODACHI カケハシ イノウエ・スカラーズプログラム

日米の大学生が互いの国や文化について学ぶ機会を提供する青少年交流プログラムです。2014年に開始されたこのプログラムの目的は、故ダニエル・K・イノウエ上院議員の人生とレガシーを称え、参加者に彼の祖国、歴史的遺産、そして日米関係への貢献について学ぶ機会を提供することです。



TOMODACHI Story Jam for Youth with Disabilities

このデジタルストーリーテリングとリーダーシップのプログラムは、障がいのある日米の若い社会人や学生10名を対象に開催しています。障がい者ジャーナリスト、SNSインフルエンサー、支援者、活動家などのゲスト講師がそれぞれの経験を語り、若者たちに変化を起こすよう働きかけ、世界に向けて自分のストーリーを発信するよう促しました。

TOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Program

このプログラムは、日本の理工学を専攻する女子大学生にアメリカの大学での研究インターンシップ体験を提供するものです。研修を通して、文化を学びリーダーシップスキルも身につけます。渡航前には、オンラインワークショップやセッションを実施し、米国での研修インターンシップに備え、自己開発ツールを完成させ、また生活の準備などを行いました。

「TOMODACHIの参加者は、地域のコミュニティに強い繋がりを持ち、日本と世界を良くすること、全ての人が自分の関心によって能力をフルに発揮する手助けをすることに意欲的だと思います。」

クリスティン・ピアソン・石井氏

新プログラム

TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Program

TOMODACHIイニシアチブとThe Toshizo Watanabe Foundation（会長：渡邉利三氏）は2022年にTOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Programをスタートさせました。

次世代を担う日本全国の高校生を対象としたプログラムです。ホームステイや学校訪問、米国でのトレーニングへの参加などを通じて、地域の人々と関わり、歴史や多様な文化に触れ、異なる視点やリーダーシップを身につけます。

8月10日から20日まで、14名の高校生がカリフォルニアでのプログラムに参加し、プログラムを通して得た学びを英語で発表しました。生徒の一人は、「リーダーとは、違いに気が付き、その違いを尊重して、他の視点から考えることのできる人だと学びました。このプログラムを通じて、将来海外に行きたいという思いが強くなりました」と語りました。

帰国後、生徒たちはそれぞれの高校で、このプログラムでの体験を共有しました。自分たちの体験を言語化して発表することで、さらに学びを深めたようです。

TOMODACHI-U.S. Embassy Go for Gold スポーツリーダーシップ プログラム

プログラムは2022年にスタートし、日本の若者のスポーツ産業に対する理解と知識を高めることを目的としています。

プログラムでは、主に施設管理、地域社会とのエンゲージメント、スポーツマネジメント、ビジネスに焦点を当、スポーツを通して、次世代のリーダーを育成します。具体的には、日本の大学生をロサンゼルスとニューヨークで各一週間ずつの研修に招待し、スポーツ産業を学びます。

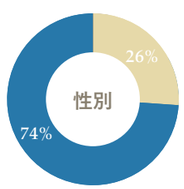
プログラムの第1期生として、スポーツを学ぶ学生10名が選ばれました。12月17日に行われた第1回オリエンテーションでは、日本のスポーツマネジメントの現状やイベントについての講演が行われました。その後、翌年1月と2月に開催される米国研修に向けたオリエンテーションに参加し、2月から3月にかけて渡米する予定です。

2022統計

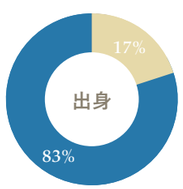
484 イベント参加者

121 プログラム参加者

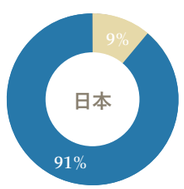
74%女性



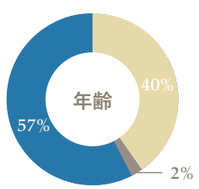
83% 日本



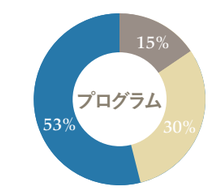
91% 東北以外



57% 大学生



53% リーダーシップ



設立当初から

9,978 プログラム参加者

359 プログラム

45,995 プログラムおよびイベント参加者

永続的なエンゲージメント

TOMODACHIアラムナイにとって、2022年はエンゲージメントとコラボレーションが実現できた年であったと言えます。新型コロナウイルスへの感染症対策による制限が徐々に緩和される中、アラムナイコミュニティーは例年にない数のイベントを開催する機会を得ました。

日米両政府の代表者も数多くの対面イベントに参加したほか、アラムナイの参加数も倍増し、地域社会との関わりやリーダーシップ・トレーニングの取り組みが活性化しました。このような熱意によって、次世代サミットも大盛況となりました。

さらに、2022年には、TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークが米国に拡大され、日米のコミュニティリーダー間のつながりが促進されました。この枠組みは、人と人とのつながりを通して、若者リーダーを育成し、力を与え続けるという両国の揺るぎない約束を体現しています。

TOMODACHIアラムナイプログラムは、プルデンシャルの寛大な支援によって成り立っており、次世代のグローバルリーダーへの道を開き続けています。

TOMODACHIアラムナイ・プログラム4つの柱

社会に出る準備

メンタリングやアラムナイ同士の交流を通して、次世代のリーダーとして必要な知識やスキルを身に付ける機会を提供し、実力を備えたグローバル人材となるよう支援します。

クリティカル&イノベーティブ・シンキング

既成概念に捉われない、時に批判的で革新的な考え方を学び、21世紀の成功と繁栄に不可欠な、優れた課題解決スキルを養います。

市民活動

TOMODACHIを通じて得たグローバルな体験を地域社会に還元し、新たな知識、スキル、価値やモチベーションを創出して地域に貢献します。

つながりと継続性

TOMODACHI世代の一員として、アラムナイ同士が交流する中で、さらにネットワークを拡大し、地域の一員として、そしてリーダーとして、人と人とのつながりを生かしていきます。

「TOMODACHIはアラムナイ同士の繋がりを拡げ、お互いに高めあうことができるコミュニティだと感じています。コロナ禍となる前には日本各地でプログラムのアラムナイが集まる機会もあり、様々な年代・分野のアラムナイと知り合うことができました。」

赤尾輝紀氏

アラムナイハイライト

TOMODACHIアラムナイ地域フレームワーク

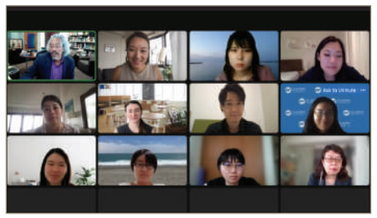
このフレームワークは、2022年に初めて日本から米国に拡大されました。TOMODACHIアラムナイ地域フレームワークは、各地のTOMODACHIコミュニティーを構築・強化するもので、現在は米国および日本の領事館・大使館の支援のもと、米国にも進出しています。この枠組みでは、各地域の地域代表として選ばれたアラムナイが、ネットワーキングやビジネススキルアップのためのイベントにアラムナイ招待し、コミュニティーを強化し、将来のリーダーを育成する機会を提供します。

次世代サミット

毎年開催しているこのイベントでは、国内外のさまざまな地域からTOMODACHIアラムナイが集まり、対面またはオンラインで日米関係の現状と未来について議論します。2022年のテーマは「新世代のリーダーシップ」でした。TOMODACHIアラムナイたちが再会を果たし、米日カウンシルコミュニティー、渡邉奨学生、サポーターなど、多くの人たちからの刺激を受けていました。

TOMO-KIN

2021年にアラムナイアンケートを実施した結果、TOMODACHIや米日カウンシルが提供する著名人たちの話が聞ける機会をコミュニティーが評価する一方で、よりカジュアルな集まりに高い関心があることが分かりました。このニーズに応えるため、TOMODACHIアラムナイコミュニティーが業界、職種、関心を超えてつながるためのカジュアルな集まりとして、TOMO-KIN（TOMODACHI+Kinshipの組み合わせ）がスタートました。毎回テーマを決めて、コミュニティーからスピーカーを招き、約30名が集まり、ネットワーキングやゲームを楽しむ会を開催しています。



キャリアトーク

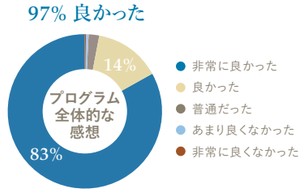
2021年8月に始まったキャリアトークは、スタッフから米日カウンシルメンバー、TOMODACHIの寄付者・支援者、日米関係を代表する有力者まで、多くのスピーカーを招いています。登壇者は、現在の職務の簡単な説明から始まり、キャリアジャーニーを共有します。そして、TOMODACHIアラムナイにその経験を伝えることで、新たな興味や夢を持つきっかけを与えています。

駐日米国大使とのミーティング

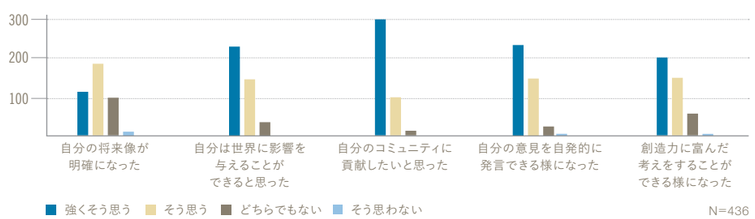
2022年3月、新たに就任したラーム・エマニュエル駐日米国大使は、東日本大震災から11年目を迎えた宮城県気仙沼市を訪れ、教育やサステナビリティに関する分野で成果を上げているTOMODACHI世代の若きリーダーたちと面会しました。大使は、東北の復興は、生活、家族、コミュニティの再建を目指す人々の決意によって成し遂げられたと述べました。

プログラム後アンケート

97% 良かった



このプログラムに参加したことで～



Q&Alumni

ジェニファー・バトラー

「私は日本で暮らし働くことが好きで、同じ関心を理解する人とのコミュニティをもつことができます。それが大切なことだと思います。TOMODACHIアラムナイの活動はコミュニティを広げてくれます。このつながりはとても価値のあるものです。」

ジェニファー・バトラー氏は2014年のTOMODACHI-Mitsui & Co. Leadership Programのアラムナイです。同プログラムに参加以降、さまざまな形でTOMODACHIコミュニティに関わってきました。また、教育に高い関心をもち、多くのフィールドで働いてきました。

ジェニファーさんは参加者やグループの引率者として多くのTOMODACHIプログラムに参加されてきました。TOMODACHIプログラムでの経験について教えてください。

TOMODACHIを内側と外側の両方からみていたため、自分の大学の学生を連れて行ったとき、学生にプログラムから何を得てほしいかわかっていました。学生はよい経験をし、プログラム後もTOMODACHIと繋がっていくことが大切だと気付いていました。

TOMODACHIのつながりに価値があると感じた経験について教えて頂けますか?

一つは、コミュニティーと、理解できる人たちと一緒にいるという感覚とです。また、日米交流への関心や、日米関係は個人と個人の繋がりから成り立っているという理解もあります。
TOMODACHIの一員であることは、この関心を説明する必要のない場があることを意味します。私は日本に住み、日本で働くことが好きです。同じ興味を理解する人たちのコミュニティーがある。それは大切なことです。TOMODACHIアラムナイの活動によってコミュニティーは拡大し続けており、アラムナイとの繋がりはとても貴重です。

将来何をしたいか迷っている学生も多くいると思います。アドバイスはありますか?

やりたいことを見つけるのはとても大変ですし、大変でいいのだと思います。私は、あしなが育英会「アフリカ遺児高等教育支援100年構想(Ashinaga Africa Initiative:AAI)」日本の留学生支援チームのディレクターをしています。学生が日本に適応するためのサポート、リーダーシップトレーニング、さまざまなプログラムを行っています。学生には大切なものがあります。私たちの考えは、その大切なものを達成するための方法を見つけることができるように、彼らの心を広げることです。道はひとつではありません。
最初からすべてを知っているわけではありませんから、その発見のプロセスが学生のすべきことの一部なのです。でも、その間に、さまざまなことを探求してほしいですね。

近由梨子

「私はこのプログラムが大好きでした。プログラムのみんなとコミュニケーションをとることができました。このプログラムを知った人には、ぜひお勧めします。」

近氏は、2022年、Building the TOMODACHI Generation: *Morgan Stanley Ambassadors Program*に参加しました。経済学と政治学を専攻し、リベラルアーツを学んでいる近氏には、幼少期を過ごしたアメリカの小学校で英語が話せないまま過ごした経験がありました。しかし、ESLプログラムのおかげで英語力が向上し、アメリカでの学校生活も楽しめるようになりました。
帰国後、日本にも日本語が話せない生徒がいることに気づきましたが、学校には特別なサポートがありませんでした。その経験から、市民組織と連携して社会にインパクトを与える仕事をしたいと思うようになったそうです。

社会問題を解決するための実践的なスキルや知識を得るために、このプログラムはどのように役立ちましたか?

プログラムにはさまざまな面で助けられましたが、ひとつは、自分が進めたいアイデアについて、効果的に相手を説得することができたことです。もうひとつは、今まで知らなかった市民組織そのものについて知ることができたこと、そして、多くの人の話を聞くことで、問題に対する考え方やどのような変化を求めているのかなど、社会問題に対する知識を深めることができたことです。

プログラム期間中、最も印象に残っていることは何ですか?

ワシントンDCのさまざまな場所に行き、大学や企業の方々の話を聞くことができたことが一番印象に残っています。小学生の頃にアメリカに住んでいて、ワシントンDCを訪れたことがある私にとって、思い出深いものとなりました。いろいろな人の話を聞くことができたのは、今までそのような人たちと話すことができなかったからで、日本に住んでいる私にとっては、その人たちは私とは違う視点やバックグラウンドを持っていて、私が注目していない問題が、その人たちにとっては大きな問題であることもありました。

プログラムについて、何かコメントしたいことはありますか?

私はこのプログラムが大好きで、プログラムのみんなとコミュニケーションをとることができました。ぜひお勧めしたいです。

ソドバヤル(Sod)・ガンバット

「TOMODACHIのプログラムは、私のリーダーシップとイニシアチブスキルを学校と課外活動をするにあたり、真に進化させました。」

ソドバヤル(Sod)ガンバット氏は2022年TOMODACHI MUFG国際交流プログラムのアラムナイです。テーマは「リーダーシップとレジリエンス」で、カリフォルニア州のアメリカ人高校生がオンラインプログラムを通じて参加しました。

プログラムで一番印象に残っていることは何ですか?

このプログラムで一番印象に残ったのは、TOMODACHIアラムナイからレジリエンスとリーダーシップに関する3人の話を聞いたことです。彼らが、イニシアチブを取り語った話は、私の心に響くものがありました。TOMODACHIアラムナイである、あやかの「Bring back and face the day(その日に向き合う)」という言葉は、私の葛藤を挑戦へと導く、深く心に残る言葉でした。

日本の学生との交流はいかがでしたか?

素晴らしい経験でした。何千キロも離れているにもかかわらず、音楽の好みから学校で好きな科目まで、多くの共通した興味を持つことができました。日本の高校生の日常生活について聞く機会もあり、電車で通学している人がいることに驚かされました。また、日本のおいしい食べ物や、ラーメン屋さんで使えるフレーズなども教えてもらい、とても楽しい経験になりました。

このプログラムによって、日本に対する見方は変わりましたか?

はい、このプログラムは間違いなく、日本全体に対する私の見方を変えました。プログラムに参加する前、私が日本文化に触れたのは、「ポケモン」や「NARUTO-ナルト-疾風伝」といった、子供の頃に流行ったアニメだけでした。しかし、日本の高校生と話し、日本のさまざまな地域について学び、日本文化に対する知識が広がりました。アメリカと日本の学生生活の違いや、学校行事なども知ることができました。

この経験をきっかけに始めたことはありますか?

文化に対する意識が高まり、学校の友人のユニークな生活についても興味を持つようになりました。また、学校のチェスクラブの副会長として、インドやフィリピンなど世界各国にクラブを広げているのも、このプログラムでの学びから得た多くのつながりがあるからです。

あなたの経験や今後の取り組みについて、付け加えたいことがあれば教えてください。

TOMODACHIのプログラムは、学校と課外活動の両方において、リーダーシップとイニシアチブのスキルを本当に向上させてくれました。将来は、テクノロジーと医療のギャップを埋め、人々の生活に貢献したいと考えています。このプログラムで得たスキルは、この目標を達成するために有益であると確信しています。

藤崎真生子

「私の成果のひとつは、「私が興味を持っていること、今やっていること、将来やりたいこと」を英語で言えるようになったことです。」

藤崎氏は、2021-2022年度TOMODACHI-STEM Women's Leadership and Research Programのアラムナイです。以前から留学を希望しており、迷わず応募したそうです。

米国での研修はどのようなものだったのでしょうか。

私の場合、プログラムの途中で最初のスーパーバイザーから別のスーパーバイザーに変更することになりました。自分の研究テーマがあまり面白くないと感じていたところ、メンターから違う分野の研究をしている人を薦められたからです。プログラム後半に推薦されたスーパーバイザーと研究室ミーティングに行き、キャリアアドバイスを受け、テーマに興味を持つようになりました。自分からコンタクトをとって会いに行ったことで、実際に行動する力がついたと思います。

1ヶ月後のご自身の変化は感じられましたか?

1ヶ月で出来ることには限りがありますが、私が決めたのは日本に持って帰れる成果を最大化するということでした。私が挑戦したのは論文を読んだり、スーパーバイザーに相談したり、博士課程を目指した理由について、研究室の学生にインタビューをしました。アメリカ現地での活動で、自分にしかできないことを模索し、また時間の有効な使い方を学びました。

その他、プログラムを通じて気づいたことはありますか?

滞在先では、日本人と台湾人の女子大生がプログラムに参加していました。女性ばかりなので、プログラムに参加している仲間がいることで、より頑張ろうという気持ちになれました。また、女性の教授が、どのようにサポートをしたり受けたりしながらキャリアを築いているのか、お話を聞く機会もありました。「理系女子」という存在をネガティブに捉えず、頑張っていこうという気持ちになりました。

プログラムが終了してから、新たに挑戦していることはありますか?

私の成果のひとつは、「私が興味を持っていること、今やっていること、将来やりたいこと」を英語で言えるようになったことです。また、現在、デンマーク工科大学に留学しています。インターンシップやプロジェクトに参加したいときは、状況を変えるためにチャレンジしました。メールを送ったり、何か機会があれば紹介してほしいとお願いしたりしました。紹介してもらうと、短時間で自分のやりたいことが具体的に話せるようになったのも、プログラムに参加した成果です。

ストーリーを分かち合う

2022年米日カウンシル アニュアルカンファレンスが東京で開催され、その閉会式で、日本人のTOMODACHIアラムナイの2名が勇敢にも各界のリーダーを前に英語でスピーチしました。

髙橋倫平氏は、2015年のTOMODACHIセントルイス-石巻草の根交流プログラムに参加しました。
プログラムを通じて、彼は新たなチャンスに目を向け、さまざまなTOMODACHIアラムナイのプログラムに積極的に参加してきました。教育は貴重なものであり、人々の人生を変え、より良い社会を作るために人々を導くことができると考えています。現在は、宮城県女川町を拠点に東北地方の若者を支援する教育NPO「まちとこ」で働いています。

2016年、米日カウンシルの創始者であるアイリーン・ヒラノ・イノウエと出会いました。アイリーンの、「あなたたちが東北、そして日本のリーダーとなっていくのよ。あなたたちが未来なのよ。」という言葉に感銘を受け、東北のリーダーとしての自覚を持ち、新たな目標に向かって頑張ろうと勇気づけられたそうです。

「世界の他の地域を知り、体験することで、自分の住む町がすばらしいと実感してほしいです。」

髙橋氏は、カンファレンスで聴衆に、「田舎の子が世界の広さを知らないまま大人になってしまっています。私は世界の広さを知った上で、自分の街が素晴らしいと彼らに感じてほしいのです。だから私はそんな田舎の女川の子どもたちに、整備された教育環境を届けたいです」と語りました。

「リーダーシップを発揮するということは、たとえ小さなことでも、誰かのためにできることをやるということ」

植田彩花氏は、TOMODACHI Toshizo Watanabe Leadership Programのアラムナイです。

医学研究者を目指す彼女は、視野を広げ、柔軟な発想と様々な知識を持ったリーダーになるために、このプログラムに応募しました。

ホロコースト博物館や全米日系人博物館を訪れ、歴史的には有名ではないものの、社会にとって重要な役割を果たした人たちのことを知りました。そして、「リーダーシップを発揮するということは、小さなことでも誰かのためにできることをすることだ」という気づきを得ました。

次世代を担うリーダーとして、「今一度、一人ひとりが社会のために何ができるかを考え、積極的に行動していただきたいと思います。そして、明るく素晴らしい未来を一緒につくっていきましょう」と観客に語りかけました。

米日カウンシル（U.S.）および米日カウンシル−ジャパンは、在日米国大使館と協力し、官民パートナーシップであるTOMODACHIイニシアチブを管理・運営します。プログラムの開発と管理、コミュニケーションと普及活動、マーケティング、活動資金調達、寄付者との折衝などを主な活動としています。米日カウンシル（U.S.）は、ワシントンD.C.に本部を置く501（c）（3）非営利非課税組織で、日米のあらゆる世代の人と人をつなぐ活動をする団体です。米日カウンシル−ジャパンは、東京で設立された公益財団法人です。米日カウンシル−ジャパンと米日カウンシル（U.S.）は別組織で、それぞれ独立した理事会によって運営されますが、双方が緊密に協力してTOMODACHIを運営しています。

米日カウンシル−ジャパン理事会（2022年12月末日現在）

理事会役員

スザンヌ・バサラ
代表理事
米日カウンシル 会長兼CEO

髙田ヘンリー聖一
代表理事
シンテックジャパン 代表取締役

岩本 展枝
監事
PwCあらた有限責任監査法人
テクノロジー・エンターテイメント アシュアランス部 ディレクター
公認会計士

理事

大出隆
学習院女子大学国際学研究所 顧問

ジェニファー・ロジャーズ
アシュリオンジャパン・ホールディングス合同会社ゼネラル・カウンセル・アジア

スティーブ・サカナシ
株式会社Matchbox Technologies グローバル推進 マーケティング戦略 取締役

谷 美由紀
モルガン・スタンレー・キャピタル株式会社 エグゼクティブディレクター

米日カウンシル−ジャパン評議員会（2021年12月末日現在）

評議員会役員

キャシー・松井 *会長*
Mパワーパートナーズファンド L.P.、
ゼネラル・パートナー

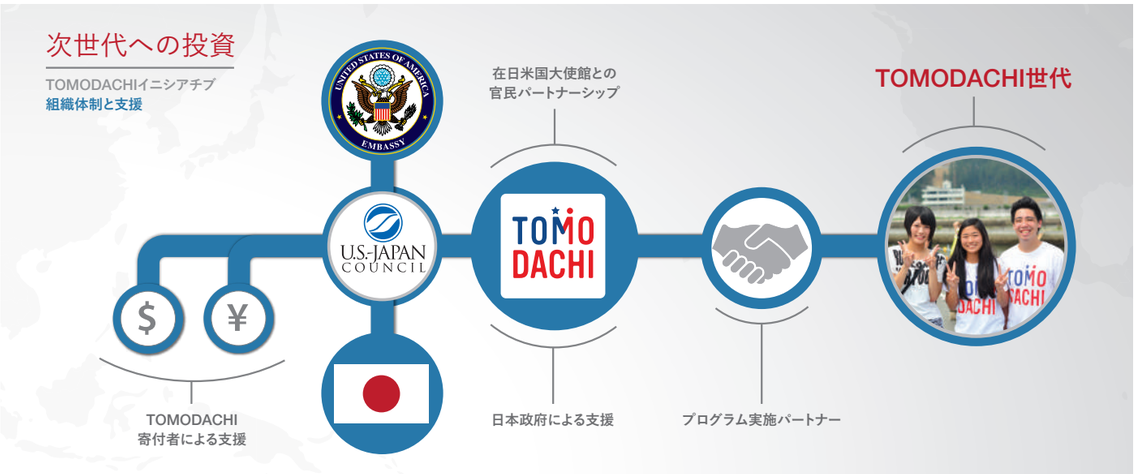
評議員

藤井 ダニエル 一範
トラスト・キャピタル株式会社
代表取締役社長兼CEO

ウィリアム ジーザス・アイアトン
アイアトン・エンターテイメント株式会社
代表取締役

大河原 愛子
株式会社デルソーレ 代表取締役会長

米国法人の米日カウンシルの理事および評議員のご支援にも同様の感謝を申し上げます。各位のお名前はこちらからご覧いただけます。
https://www.usjapancouncil.org/board-of-directors-us/ ｜ https://www.usjapancouncil.org/board-of-councilors/



「私にとってTOMODACHIとは、沢山の人とチャンスの出会いを通して、新しい自分に出会える場所です。TOMODACHIはいつも私を ポジティブな方向に動かし続けてくれます。」

熊澤帆夏氏

感謝を込めて

ファウンディング・ストラテジック・パートナー

（2012年創立当初より$1,000,000以上）

ストラテジック・パートナー

（$1,000,000以上）

協賛企業

（$100,000から$1,000,000）

支援企業

（$10,000から$100,000）

エクソンモービル・ジャパン合同会社
早坂毅税理士事務所
株式会社帝国ホテル

公益財団法人 公益法人協会
あずさ監査法人

オリック・ヘリントン・アンド・サトクリフ
外国法事務弁護士事務所
トライコー株式会社

高まるTOMODACHIの広がり

さまざまな形でTOMODACHIの知名度を高め、幅広くご周知いただいております。数多くの企業の皆さまに厚く御礼申し上げます。

TOMODACHIロゴを機体にデザインした全日空機

羽田空港内の各所に設置されたTOMODACHIの看板

実施運営パートナー

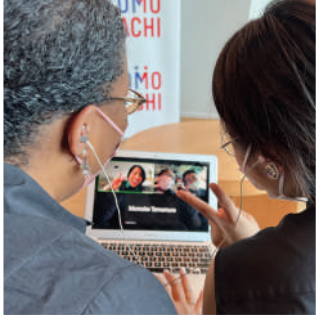
TOMODACHIではプログラム運営にあたり、パートナーとして多くの実施団体と協力して、次世代を担う若い世代に、人生の転機となるような機会を提供しています。2021年にはTOMODACHIの資金提供により、以下のパートナーがプログラムを実施しました。

Children's National Medical Center | Cultural Vistas | 特定非営利活動法人エティック | ニューヨーク州立ファッション工科大学 | 一般財団法人SFCフォーラム | 公益社団法人日本国際生活体験協会（EIL） | 一般財団法人日本国際協力センター | NPO法人じぶん未来クラブ | ローラシアン協会 | リーハイ大学 | ルミナラーニング | パーソンズ・ニュー・スクール・フォー・デザイン | ライス大学 | マサチューセッツ大学ボストン校 | ワシントンセンター | 日本スポーツマネジメント学会（JASM） | LA84財団 | LeadOff Sports | 近畿日本ツーリスト

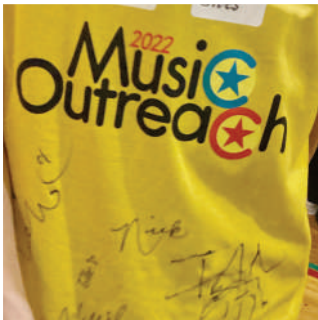
TOMODACHI決算概要

TOMODACHI累計寄付額（各年）（米ドル建て）
米日カウンシル（連結）

TOMODACHIへの寄付金および誓約寄付金	2011-2021	2022	2023-25（誓約済み）	TOTAL
米日カウンシル–ジャパン	$35,010,342	$898,070	$1,111,000	$37,019,412
米日カウンシル（U.S.）	23,730,398	445,709	0	24,176,107
小計	58,740,740	1,343,779	1,111,000	61,195,519
現物寄付（U.S.およびジャパン）	5,239,611	0	0	5,259,611
寄付金および誓約寄付金の総合計	$63,980,351	$1,343,779	$1,111,000	$66,435,130



TOMO DACHI

@TOMODACHI @USJapanTOMODACHI @USJapanTOMODACHI @TOMODACHI_initiative

tomodachi.org